

## 青年の願いにこたえられる新しい政治へ

### ——みんなで参議院選挙にとりくもう

2010年6月16日

「雇用やくらしの実態アンケートを集めて青年の声を市長に届けた」「マイクロバスで米軍基地フィールドワークにとりくんだ」——全国大会から7カ月。民青同盟は青年・学生の願いや関心にこたえてきました。

鳩山首相が1年もたたずに辞任におこまれました。全国青年大集会などの青年の運動は、「若者の使い捨てはゆるさない」「基地の押しつけはやめて」という強い世論をつくりだし、政治を前に動かしています。参議院選挙が目前に迫っています。切実な願いをたくして投じる青年の一票一票が政治をかえる力です。一人ひとりの願いの実現をめざして参議院選挙のとりにくみに力をあわせることをよびかけます。

## 1、「全国青年大集会2010」の成功と青年のたたかい

### （1）集会成功を確信に、たたかいの新たな前進を

「あきらめない」というパワーをもらった」「団結するってカッコいいと思った」——ひろがる連帯のきずな、わきあがる勇氣と希望。5月16日に開催された「全国青年大集会2010」は、前回の集会を上回る5200人が参加し、大きな成功をおさめました。

「企業の力がどんなに巨大でも、最後までたたかっていきたい」「小さかったけど声を出してみた。その声を次につなげてくれたのはここにいる仲間たち」など、集会では、若者を使い捨てにする大企業にたちむかう、たたかいの前進の息吹がいきいきと交流されました。翌日の国会・省庁要請では、青年の実態と願いを政治に直接届けました。全国各地に集会実行委員会が結成され、正規・非正規、職種の違い、仕事の有無をこえた青年の共同、県・地域ごとのプレ集会やバスツアーなどのとりくみが大きくひろがりました。自己責任論に苦しめられながらも、仲間のなかで「自分は一人ではない」と、政治や社会がおかしいことを知り、若者が声をあげはじめています。

集会成功の背景には、民青同盟の一つ一つの班や地区、県の努力がありました。班会議やつどいをひらき、一人ひとりの願いや生きづらさを「わかったもの」にせず交流し、「自分にとっての集会」を語りあったことが大きな力になりました。ハローワーク調査や街頭宣伝、すべての同盟員への働きかけに挑戦し、全国で6500人の声が集まった実態黒書がつけられました。

「集会DVD」を活用して集会の感動と確信をみんなのものにし、青年の運動をさらにひろげましょう。集会にむけてとりくんだ黒書づくり、労働組合や諸団体の青年との共同をひきつづき発展させ、自治体や地方議会への要請行動、県・地域ごとの青年集会や企画などをすすみましょう。

### （2）核兵器廃絶、米軍基地撤去へ、青年の声を発信しよう

5月、国連でNPT（核不拡散条約）再検討会議がひらかれました。日本から400人の青年が「核兵器のない世界」をめざそうとアメリカ・ニューヨークにわたり、世界の青年と連帯してうったえました。日本から691万筆もの署名が届けられました。「原爆パネルに心動かされた」「核兵器は絶対いらない。がんばって」など、青年の行動が世界からも注目をあびました。NPT再検討会議では、核兵

器廃絶をめざす期限を切ったとりくみやプロセスが初めて議題となり、核保有国へ核軍縮をよびかける文書が全会一致で確認されました。国際署名や折り鶴プロジェクトなど、積み重ねてきた青年の運動は、世界をうごかす一翼を担っています。NPT報告会や被爆体験を聞く会、原水爆禁止世界大会にむけてのバスツアーなどにとりくみ、「核兵器のない世界」をめざす青年の声を発信しましょう。

沖縄では、普天間基地の閉鎖・返還と県内移設反対をきっかけに県民大会が開かれ、9万人が参加しました。長年にわたる基地被害の実態と「もうガマンできない」という県民の思いが明らかになる中で、「日本のどこにも基地はいらない」「なんでアメリカに撤去を求めないのか」という思いが青年の間でひろがっています。沖縄のたたくいと連帯し、米軍基地撤去を求める運動を進展させましょう。

## 2、参議院選挙——財界・アメリカにモノが言える政治に

### (1) 青年の願いと参議院選挙

#### ● 願い実現をはばむ財界・アメリカいいなりの政治

「150社受けても仕事が決まらない。早く安定した生活を送りたい」「午前8時から午後10時まで仕事。休憩は20分」「入学したら新聞奨学生をして自分で学費を払わなければ」「米軍基地や核兵器の次の世代に残したくない」——アンケートにつづられた深刻な実態やくらしの不安、宣伝やついで出会った数かずの青年の声、競争と自己責任論による生きづらさ、平和な世界をもとめるメッセージ——私たちは一つひとつのとりくみのなかで、「青年の願いにこたえるためには、政治をかえなければ」という思いを強くしてきました。昨年の総選挙で、国民・青年は「この現実をなんとかしたい」との思いで自民党・公明党に厳しい審判をくだしましたが、民主党政権は青年が要求してきた肝心要の問題で、期待と公約に背く裏切りを重ねてきました。「まともに生活できる仕事を」という青年の願いに押され、民主党は労働者派遣法の改定を公約しましたが、改定案では財界の圧力に負けて「常務型」「専門業務」という抜け穴をつくり、若者の「使い捨て」を温存しようとしました。普天間基地の問題では、アメリカに無条件撤去をせまらずに、名護市・辺野古に新たな基地をつくり、鹿児島県徳之島や本土にも訓練を分散、拡大しようとしています。核兵器廃絶への世界的な世論が高まっているのに、NPT再検討会議には首相も外相も出席せず、積極的に行動しようとしませんでした。そのおもとは「大企業中心」「アメリカいいなり」の政治から抜け出す立場をもてないという大問題があります。

菅政権は、首相や幹事長の交代で「はじめがついた」「新しくなった」といいますが、鳩山前首相や小沢前幹事長が退陣におこまれたのは個人の問題だけではなく、民主党政権全体の責任です。しかし菅首相はなんの反省もないまま、新たな基地を沖縄におしつける「日米合意」をふまえることを表明し、「強い経済」などといって消費税増税の議論をはじめる立場を明らかにするなど、ますます財界・アメリカいいなりの政治に踏み込んでいこうとしています。「人間らしく働きたい」「戦争も核兵器もない世界を」など、民青同盟がかかげてきた要求を実現するためには、財界・アメリカにモノが言える政治をつくる必要があります。青年の願いの実現をはばむ政治や社会のしくみを学び、「政治をかえて実現したいこと」や「自分にとっての選挙」を班で交流しましょう。

#### ● 青年の模索によりそい、展望をひろげよう

いま多くの青年が、切実な実態にあるなかで「自分の努力の問題ではなく、政治や社会がおかしいのではないか」と気づき、政治に目をむけはじめています。「民主党でかわるのか」「自民党に戻るのもイヤ」と「二大政党」への不信がひろがり、「どうしたら政治はかわるのか」との探求と模索はますます強まっています。ガマンさせられている実態、「本当はこうしたい」という願いを語りあい、「大企

業に社会的責任を果たさせれば、若者の仕事とくらしを支えることはできる」「アメリカにモノが言えれば、『基地のない沖縄』『核兵器のない世界』はつくれる」という展望をひろげることが、今ほど求められているときはありません。

民青同盟は、全国青年大集会でも、核兵器廃絶や米軍基地撤去を求める運動でも、「仕方ない」「自分はまだマシ」という言葉の奥にある「ほんとはかえたい」「思いに心をよせ、」あきらめていた現実」を一步一歩かえていく展望を学び、語りあつてきました。切実な願いの実現に力をあわせ、日本共産党を相談相手に日本共産党綱領と科学的社会主義を学んで、「青年の苦しみは」自己責任」ではなく政治の責任」「一つひとつの活動が社会をうごかす力」と、青年に確かな希望をひろげてきました。

かつてない模索がうずまくこの参議院選挙こそ、民青同盟の魅力と役割を力いっぱい発揮するときです。新しい政治をつくる展望をひろげ、青年の願いを実現する道をひらくために、全国の班と同盟員が力を合わせることを心からよびかけます。

## (2) 願いをたくせる政党は——財界、アメリカにモノが言える日本共産党

### ●大企業に社会的責任を果たさせ、若者の雇用とくらしを支える政治を

どうすれば貧困をなくし、若者が人間らしく働ける社会をつくれるのでしょうか。

この10年間、大企業のもうけを優先する政治によって、青年には、正規雇用を減らし非正規雇用におきかえ、リストラと賃下げがおしつけられてきたのに、大企業の利益と内部留保は大きくふくれあがりました。「正規の仕事を増やしてほしい」「せめて結婚や子育てができる給料をもらいたい」——こうした青年の願いを実現するためには、大企業がためこんだ内部留保を国民・青年に還元することが必要です。

「内部留保を還元すれば雇用とくらしを守れる」「ルールをつくれれば日本経済も健全に発展する」という展望をもって、実際に行動しているのが日本共産党です。「派遣切り」やモノ扱いの働かせ方など、若者がガマンを強いられている実態を国会でとりあげ、「若者の意欲の問題ではなく政治の責任」「人間らしい労働のルールをつくれ」と政府にせまり、政治をうごかしてきました。「派遣切り」をやめさせるために大企業に直接交渉も行ってきました。菅政権をはじめ多くの政党が「法人税減税、消費税増税」をいいだす中、「大企業減税のための消費税増税ではなく、軍事費を削り、大企業・大金持ちに自分の負担を」と財源もしっかり示しています。

企業献金をうけとらず、財界に国民の立場でモノが言える日本共産党をのばすことが、若者の雇用とくらしを守る一番の力になります。

### ●「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」をめざして

「もう二度と被爆者を生み出たくない」「米軍兵士による暴力が不安」「戦争に使う基地を日本におかないで」——国民・青年が平和の願いを強めているにもかかわらず、日本政府はなぜ「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」の実現へ行動しようとしなのでしょう。それは、アメリカの核兵器や海兵隊を「抑止力」と思いこみ、アメリカのいいなりになっているからです。多くの国々が核兵器廃絶をもとめ、軍事同盟が次つぎになくなっていく世界で、時代遅れになりつつあります。

日本共産党は、国民・青年の平和を願う声にこたえて、5月にアメリカに代表団を送りました。「核兵器廃絶をめざす国際交渉をはじめの合意を」などの要請は、各国の代表や国連関係者に大いに歓迎され、NPT再検討会議で核兵器廃絶への「一歩前進」に貢献しました。普天間基地の問題では、日本の政党ではじめて沖縄の声をアメリカ政府に直接伝え、「沖縄の海兵隊が実際に動いているのはイラクや

アフガニスタン。平和を守る『抑止力』ではない」「普天間問題の解決には『移設』ではなく無条件で撤去するしかない」と、事実と道理の力で働きかけました。アメリカ政府とは今後も意見交換していくことを確認し、公式の対話のルートがひらかれました。

アメリカに堂々とモノが言える日本共産党を前進させることが、「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」を実現する確かな力になります。

### (3) 参議院選挙で、つながり、まなび、政治をかえよう

第34回全国大会決議にある「青年の連帯をきずき、成長を支えあい、行動へふみだす確かな力」を發揮して、みんなできりくみ、一人ひとりが輝く参議院選挙にしましょう。日本共産党と力を合わせて、以下の活動できりくみしましょう。

#### ① 班会議を何より大切に、「かえよう決議」を

班会議をひらいて、一人ひとりの願いや関心、「政治に言いたいこと」を交流し、その実現の展望と日本共産党の値打ちを学ぶことがなにより大切です。疑問や意見の違いも認めあいながらりかえし学び交流し、すべての班で「だから私は共産党」という思いをプラン用紙に書いて「日本共産党と一緒に政治をかえよう決議」をあげましょう。宣伝グッズの作成、班員への声かけ、演説会への参加など、一人ひとりができることから始めることが大事です。班活動に参加できていない仲間にも声をかけ、願いや実態を聞き、活動参加をよびかけましょう。

#### ② 一人でも多くの青年に日本共産党の姿を知らせ、支持をひろげる

「日本共産党の元議員と『甲子園浜BQ』つどい。政治への関心を語りあった」「参加者が総理になったつもりで『公約』を交流する『総理にしやがれ』を開催」などの経験を生かし、ひろい青年とともに多彩に楽しくつどいできりくみしましょう。「保育園を増やしてほしい」「就職難をなんとかして」「地球温暖化問題に真剣にとりくんで」「仕事も住まいも失ったとき助けてくれたのが共産党」——一人ひとりの「Myうったえ」は、青年の心に「自分も同じ」「政治をかえたい」という思いを届ける貴重な力をもっています。「青年まちかどトーク」や街頭でのつどい、お帰りなさい宣伝、友人や職場の同僚との対話できりくみ、日本共産党への支持と応援する青年の輪をひろげましょう。「日本共産党と一緒に日本をかえるネット」に参加・登録し、ネット会員を気軽にひろげながら、政治をかえたいと願い日本共産党に関心をよせる様ざまな分野の青年と力をあわせましょう。

#### ③ 仲間を増やし、政治をかえる力を大きく

多くの青年が切実な実態におかれ、かつてない模索がうずまく参議院選挙は、民青同盟の魅力と役割が輝くときです。仲間を増やし大きな民青同盟をつくってこそ、政治をかえ、願いを実現する力も大きくなります。選挙やこの間の取り組みの中でむすびついた青年に加盟をよびかけ、仲間をひろげましょう。

選挙の中で一人ひとりの同盟員とつながり、民青同盟の財政をみんなで支えるために、同盟費の納入と機関紙の配達・集金を強め、夏期募金できりくみしましょう。

以上

## 学生の願いにこたえられる新しい政治へ ——主権者として成長し、参院選にとりくもう

2010年6月16日

「新入生といっしょに反貧困ボランティアに参加」「マイクロバスで米軍基地フィールドワーク」「シンポジウムで地球温暖化解決の道を学んだ」——全国大会から7カ月。民青同盟は青年・学生の願いや関心にこたえてきました。

第2回中央委員会は、「班が主人公」の活動を発展させるとともに、未来をになう学生が学んで主権者として成長し、みんなで参議院選挙にとりくむことをよびかけます。

### 1、新入生をあたたく迎えた新歓運動

#### （1）学生生活の第一歩をあげました民青同盟

「机の上の勉強だけでは分からないことが学べる」「学費値下げの運動をしたい」「みんなと話してすごく楽しい」——この春、全国各地の学生班は、新しいスタートをきった新入生をあたたく歓迎し、学生生活への第一歩をあげまし、仲間を迎えてきました。

「NGOで活動してみたい」「クラスになじめるか不安」など、新入生の期待や不安にこたえ、受験や入学を応援する対話と交流がひろがりました。一人ひとりとの出会いを大切に、ランチタイム交流や「焼き肉のつどい」、履修相談&キャンパス案内ツアーなど、多彩にとりくみました。「政治のことも趣味のことも話せるのは貴重」「会話が苦手だけど話しやすかった」と、新入生とつながり、学生生活を支えあう仲間の輪がはぐくまれていきます。

「大学でどう学ぶのか」「これからの時代をどう生きるのか」など、模索にこたえる学びに共感がひろがりました。フィールドワークや働く先輩の話などで視野をひろげ、「知りたいこと」「分からないこと」を率直にだしあい、みんなで考えました。「資本主義は限界か!? マルクスは生きている学習会」など、社会のしくみやかえる展望を学ぶなかで、「学問する大切さが見えてきた」「自分の思いや行動に自信をもてた」と、新入生の学びと成長を励ましています。

「就職のことが心配」「学費が高くて困っている」などの思いにこたえ、この現実を変えようと声をあげる民青同盟への共感、連帯がひろがりました。学費の国際比較に衝撃を受け、その場で親に電話して驚きを伝えたある受験生は、「高校の授業料もバイトして払っていた。社会活動をやってみたい」と加盟しました。

民青同盟の“つながる、まなぶ、かえられる”魅力が、新入生歓迎のとりくみで豊かに発揮されました。「班のパンフを見た新入生が、『すごく楽しそうですね』と目を輝かせていた」「仲間がふえて新しい意見も出され、班がにぎやかに」——多くの新入生に魅力をひろげ、仲間を迎え、学生班も同盟員も成長しています。新歓活動の経験を生かして、班活動を充実、発展させていきましょう。

#### （2）「班が主人公」の活動を発展させよう

「貧困問題を学びたい」という声にこたえた貧困フィールドワーク、「B級グルメを食べたい」とこ当地グルメを食べる会、「沖縄に行きたい」と夏休みのスタディーツアー——3分間スピーチやランチ

タイム交流でだされた一言、アンケートに書かれた仲間の思いを出発点に、なんでも交流し、学び、行動する「班が主人公」の活動にとりくみましよう。

### ●科学的社会主義と日本共産党綱領で、学びの魅力が輝く班に

「みんなと討論したい」「問題がおこる本質を知りたい」など、多くの学生がもっと充実した学びをもとめています。民青同盟の学びには、「社会や世界のことを知りたい」「将来やりたいことを見つけたい」「人の役に立ちたい」などの新入生の初心にこたえ、学びのおもしろさを実感でき、自分の生き方を考えられる魅力があります。

それは、科学的社会主義や日本共産党綱領を学んで、ものの見方や考え方や、世界の流れや「社会はかわるし、かえられる」という展望を深くつかむことができるからです。また、一人ひとりの意見や考えを大事になんでも語りあうことで、みんなが学びの主人公になることを大切にしているからです。

民青新聞の学習のページや、科学的社会主義の入門書『マルクスは生きている』などを活用し、科学的社会主義と日本共産党綱領を学びましよう。「ここがおもしろかった」「これって、どういうこと？」と率直に思いを交流し、仲間とともに学びの魅力を輝かせましよう。

### ●学費値下げ、就職難の解決、平和な世界——願いの実現に力あわせて

「あきらめない」というパワーをもらった」「団結するってカッコいいと思った」——5月16日に開催された全国青年大集会2010は、前回の集会上回る5200人が参加し、大きな成功をおさめました。「就活で授業にでられず、何のために大学にきたのかわからなくなった」「進学のためのお金がなく、妹と泣きながら相談した」など、一人ひとりの願いや生きづらさを「わかったもの」にせず交流し、自分は一人ではないこと、政治や社会がおかしいことを知り、学生が声をあげはじめています。「青年大集会DVD」をみて交流し、実態黒書づくりや、大学や地方議会への要請行動、地域ごとの青年集会や学内企画などをすすめましよう。

国連で開かれたNPT(核不拡散条約)再検討会議にあたって、日本から400人の青年・学生がニューヨークに行き、「核兵器のない世界に」とうたったえました。国際署名や折り鶴プロジェクトなど、積み重ねてきた青年・学生の運動は、世界をうごかす一翼を担っています。NPT報告会や被爆体験を聞く会、原水爆禁止世界大会のバスツアーなどにとりくみ、平和の願いを発信しましよう。

### ●年間プラン、仲間を迎える目標をもって

加盟したときに思ったこと、よかったことなど、「私にとっての民青」をふり返り、どんな班をつくらせていきたいかを話しあい、年間の活動プランや仲間を迎える目標をもちましよう。

もっと多くの学生と出会い、願いにこたえるためにも、政治や社会をさらに前にうごかすためにも、民青同盟を大きくすることが必要です。新歓でむすびついた学生や友だちなどに、「私にとっての民青」の魅力を語り、率直に、加盟してほしい思いを伝えましよう。

## 2、参議院選挙——財界・アメリカにモノが言える政治に

### (1) 学生の願いと参議院選挙

#### ●願い実現をはばむ財界・アメリカいいなりの政治

「何十社受けても就職が決まらない」「学費を払うためのバイトで授業に出れない」——学費署名や

就活実態アンケート、班活動でだされるこれらの実態は、本人の努力だけで解決できる問題ではありません。高い学費や就職難だけでなく、学びの環境、将来の進路や生き方、平和や地球環境など、「これからの日本はどうなるのか」「どんな政治を進めていくのか」は、学生一人ひとりの人生にとって大事なテーマです。

この6月、鳩山首相が1年もたたずに辞任においこまれました。全国青年大集会などの青年・学生の運動は、「若者の使い捨てはゆるさない」「基地の押しつけはやめて」という強い世論をつくりだし、政治を前にうごかしてきました。政治のゆくえを、国民一人ひとりの一票によって決めていくのが選挙です。参議院選挙が目前にせまっています。

昨年の総選挙で、国民・青年は「この現実をなんとかしたい」との思いで自民党・公明党に厳しい審判をくだしましたが、民主党政権は青年・学生が要求してきた肝心要の問題で、期待と公約に背く裏切りを重ねてきました。「まともに生活できる仕事を」という青年・学生の願いにおされ、民主党は労働者派遣法の改定を公約しましたが、改定案では財界の圧力に負けて「常句型」「専門業務」という抜け穴をつくり、若者の「使い捨て」を温存しようとしました。普天間基地の問題では、アメリカに無条件撤去をせまらずに、名護市・辺野古に新たな基地をつくり、鹿児島徳之島や本土にも訓練を分散、拡大しようとしています。核兵器廃絶への世界的な世論が高まっているのに、NPT再検討会議には首相も外相も出席せず、積極的に行動しようとしませんでした。菅政権は、首相や幹事長の交代で「けじめがついた」「新しくなった」と言いますが、鳩山前首相や小沢前幹事長が退陣においこまれたのは個人の問題だけではなく、民主党政権全体の責任です。そのおおもとは「大企業中心」「アメリカいいなり」の政治から抜けだす立場をもてないという大問題があります。しかし菅首相は何の反省もありません。新たな基地を沖縄におしつける「日米合意」をふまえることを表明し、「強い経済」などといって消費税増税の議論をはじめめる立場を明らかにするなど、ますます財界・アメリカいいなりの政治に踏み込んでいこうとしています。「人間らしく働きたい」「戦争も核兵器もない世界を」など、民青同盟がかかげてきた要求を実現するためには、財界・アメリカにモノが言える政治をつくるのがどうしても必要です。学生の願いの実現をはばむ政治や社会のしくみを学び、「政治をかえて実現したいこと」や「自分にとつての選挙」を班で交流しましょう。

### ●青年・学生の模索によりそい、展望をひろげよう

いま多くの学生が、切実な実態にあるなかで「自分の努力の問題ではなく、政治や社会がおかしいのではないか」と気づき、政治に目をむけはじめています。「民主党でかわるのか」「自民党に戻るのもイヤ」と「二大政党」への不信がひろがり、「どうしたら政治はかわるのか」との探求と模索はますます強まっています。ガマンさせられている実態、「本当はこうしたい」という願いを語りあい、「大企業に社会的責任を果たさせれば、若者の仕事とくらしを支えることはできる」「アメリカにものが言えれば、『基地のない沖縄』『核兵器のない世界』はつくれる」という展望をひろげることが、今ほど求められているときはありません。

民青同盟は、全国青年大集会でも、学費負担軽減のとりくみでも、核兵器廃絶や米軍基地撤去を求め運動でも、「仕方ない」「自分はまだマシ」という言葉の奥にある「ほんとはかえたい」「思い心をもよせ、」あきらめていた現実」を一步一步かえていく展望を学び、語りあってきました。切実な願いの実現に力をあわせ、日本共産党を相談相手に日本共産党綱領と科学的社会主義を学んで、「学生の苦しみは“自己責任”ではなく政治の責任」「一つひとつの活動が社会をうごかす力」と、学生に確かな希望をひろげてきました。

かつてない模索がうずまくこの参議院選挙こそ、民青同盟の魅力と役割を力いっぱい發揮するときです。新しい政治をつくる展望をひろげ、学生の願いを実現する道をひらくために、全国の班と同盟員が力をあわせることを心からよびかけます。

## (2) 願いをたくせる政党は——財界、アメリカにモノがいえる日本共産党

### ●大企業に社会的責任を果たさせ、雇用とくらし、学びを支える政治を

どうすれば貧困をなくし、若者が人間らしく働ける社会をつくれるのでしょうか。

この10年間、大企業のもうけを優先する政治によって、青年・学生には、正規雇用を減らし非正規雇用におきかえたことによる就職難や、世界でも異常な高学費がおしつけられてきたのに、大企業の利益と内部留保は大きくふくれあがりました。「正規の仕事を増やしてほしい」「お金の心配なく学びたい」——こうした学生の願いを実現するためには、大企業がためこんだ内部留保を国民に還元することが必要です。

「内部留保を還元すれば雇用とくらしを守れる」「ルールをつくれれば日本経済も健全に発展する」という展望をもって、実際に行動しているのが日本共産党です。就職活動やアルバイトにおわれて学べず、ガマンを強いられている実態を国会でとりあげ、「学生の勉学を支えるのは政治の責任」「社会への第一歩を応援する政治に」と政府に迫り、政治をうごかしてきました。「派遣切り」や「内定取り消し」をやめさせるために財界や大企業に直接交渉もおこなってきました。菅政権はじめ多くの政党が「法人税減税、消費税増税」をいいます中、「大企業減税のための消費税増税ではなく、軍事費を削り、大企業・大金持ちに応分の負担を」と財源もしっかり示しています。

企業献金をうけとらず、財界に国民の立場でモノが言える日本共産党をのばすことが、若者の雇用とくらしを守る一番の力になります。

### ●「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」をめざして

「もう二度と被爆者を生みだしたくない」「米軍兵士による暴力が不安」「戦争に使う基地を日本におかないで」——国民・学生が平和の願いをつよめているにもかかわらず、日本政府はなぜ「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」の実現へ行動しようとしないのでしょうか。それは、アメリカの核兵器や海兵隊を「抑止力」と思い込み、アメリカのいいなりになっているからです。多くの国々が核兵器廃絶をもとめ、軍事同盟が次つぎになくなっていく世界で、時代遅れになりつつあります。

日本共産党は、国民・学生の平和を願う声にこたえて、5月にアメリカに代表団をおくりました。「核兵器廃絶をめざす国際交渉をはじめる合意を」などの要請は、各国の代表や国連関係者に大いに歓迎され、NPT再検討会議で核兵器廃絶への「一歩前進」に貢献しました。普天間基地の問題では、日本の政党ではじめて沖縄の声をアメリカ政府に直接伝え、「沖縄の海兵隊が実際に動いているのはイラクやアフガニスタン。平和を守る『抑止力』ではない」「普天間問題の解決には『移設』ではなく無条件で撤去するしかない」と、事実と道理の力で働きかけました。アメリカ政府とは今後も意見交換していくことを確認し、公式の対話のルートがひらかれました。

アメリカに堂々とモノが言える日本共産党を前進させることが、「核兵器のない世界」「基地のない沖縄」を実現する確かな力になります。

## (3) 参議院選挙で、つながり、まなび、政治をかえよう

第34回全国大会決議にある「青年の連帯をきずき、成長を支え合い、行動へふみだす確かな力」を発

揮して、一人ひとりが学んで主権者として成長し、みんなできっと参議院選挙にしましょう。日本共産党と力をあわせて、以下の活動にとりくみましょう。

### ① 班会議を何より大切に、「かえよう決議」を

班会議を開いて、一人ひとりの願いや関心、「政治に言いたいこと」を交流し、その実現の展望と日本共産党の値打ちを学ぶことがなにより大切です。疑問や意見の違いも認めあいながらくりかえし学び交流し、すべての班で「だから私は共産党」という思いをプラン用紙に書いて「日本共産党と一緒に政治をかえよう決議」をあげましょう。宣伝グッズの作成、班員への声かけ、演説会への参加など、一人ひとりができることから始めることが大事です。班活動に参加できていない仲間にも声をかけ、願いや実態を聞き、活動参加をよびかけましょう。

### ② 一人でも多くの学生に日本共産党の姿を知らせ、支持をひろげる

「日本共産党の議員と『甲子園浜B B Q』つどい。政治への関心を語りあった」「参加者が総理になったつもりで『公約』を交流する『総理にしやがれ』を開催」などの経験を生かし、ひろい青年・学生とともに多彩に楽しくつどいにとりくみましょう。「就職難をなんとかして」「給付制の奨学金をつくってほしい」「地球温暖化問題に真剣にとりくんて」——一人ひとりの「Myうったえ」は、学生の心に「自分も同じ」「政治をかえたい」という思いを届ける貴重な力をもっています。「青年まちかどトーク」やつどい、昼休み宣伝やお帰りなさい宣伝、サークル訪問や友人との対話にとりくみ、日本共産党への支持と応援する青年の輪をひろげましょう。「日本共産党と一緒に日本をかえるネット」に参加・登録し、ネット会員を気軽にひろげながら、政治をかえたいと願い日本共産党に関心をよせる様々な分野の学生と力を合わせましょう。

### ③ 仲間を増やし、政治をかえる力を大きく

多くの学生が切実な実態におかれ、かつてない模索がうずまく参議院選挙は、民青同盟の魅力と役割が輝くときです。仲間を増やし大きな民青同盟をつくってこそ、政治をかえ、願いを実現する力も大きくなります。選挙やこの間のとりくみの中でむすびついた学生に加盟をよびかけ、仲間をひろげましょう。

選挙の中で一人ひとりの同盟員とつながり、民青同盟の財政をみんなで支えるために、同盟費の納入と機関紙の配達・集金を強め、夏期募金にとりくみましょう。

以上